

教科書にのっていないアフリカ

●協働先 NGO/NPO

(特活) ワールド・ビジョン・ジャパン

(財)自治体国際化協会 自治体国際協力促進事業 助成対象事業

実施地域

福岡県福岡市

体験を待つ方々



事業実施期間

2009年6月3日～6月7日

協力形態

共催



実施内容

参加者は約30分かけて、ヘッドホンステレオから流れてくる子どものストーリーを聞きながら、1つ1

つ区切られた部屋を順番に進み、アフリカの子ども的人生を疑似体験する参加者

写真提供：ワールド・ビジョン・ジャパン

つ区切られた部屋を順番に進み、アフリカの子ども的人生を疑似体験する。ストーリーは全て実話に基づいている。

事業目的/背景

体験型イベント「教科書にのっていないアフリカ」は、貧困の中に生きるアフリカ(ウガンダ、マラウイ、ザンビア)の子どもたちの厳しい生活環境を疑似体験するプログラムで、県民の国際理解の促進を目的として実施した。

協働のきっかけ

同プログラムは、2007年から関東(東京)、関西(神戸)開催に加えて、2008年洞爺湖G8サミットが開催された北海道(札幌)の3地域にて特定非営利活動ワールド・ビジョン・ジャパン(以下、WVJ)主催で開催され、予想を大きく上回る8,500人以上の来場者とメディアからの反響が

あった。まだ開催されていない日本の主要都市での開催を望む声が内外より多く寄せられ、中でも九州地方での開催を望む声は、体験された方や学校・教育関係者からの口コミやブログなどを通して寄せられたことから、九州地方での開催実現に向け、WVJより自治体国際化協会（以下CLAIR）を通じ、(財)福岡県国際交流センター（以下FIEF）に事業共催について相談があった。

FIEFでは、福岡県内在住の留学生や青年海外協力隊等海外活動経験者等を小学校・中学校・高校等にゲストティーチャーとして派遣し国際理解教育を実施するなど、国際理解教育推進事業を実施しており、本県での開催は、県民とくに次世代を担う子供たちの国際理解を促すことが期待できるのではないかと考え、共同で開催する運びとなった。

役割分担

自治体側：

- ・会場選定・調整
- ・CLAIRへの助成申請及び報告書の作成
- ・広報
- ・運営ボランティアの確保
- ・当日の運営

NGO/NPO側：

- ・会場設営等運営にかかる手配
- ・広報物の製作、広報
- ・運営ボランティアスタッフの確保、ボランティアスタッフの事前研修
- ・当日の運営



最終日には100人以上の待ち行列ができるほどの大盛況となりました。

写真提供：ワールド・ビジョン・ジャパン

(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（市民社会や政府への働きかけ）を行う国際NGOです。1987年に設立され、子どもたちとその家族、そして彼らが暮らす地域社会とともに、貧困と不正を克服する活動を行っています。

協働によるメリット等

メリット：

FIEFとWVJの特性を活かすことによって、開催地域に合った広報活動やボランティア募集などを実施することができ、多くの方々に体験いただき、また、たくさんのボランティアの協力を得ることができた。

デメリット：

物事を決定するにあたり、内部処理に要する時間が異なるため、事前に共通の認識をもって準備を進めていくことが必要となった。

協働する上で配慮した点

- ・責任の所在を明確にするため「覚書」を交わした

事業評価／今後の展望

福岡県はもとより九州全県より、2,221名という、当初目標（1,500名）を上回る来場者数となった。学生や、週末にはご家族連れの姿も多く見られ、幅広い年齢層にアフリカの現実に向き合う機会を提供することができた。また、イベント運営ボランティアには延べ115名の方にご参加いただき、ボランティア同士のつながりを深める機会となった。

今回のようにFIEF（福岡県）、WVJ（東京都）というように、活動拠点の異なる団体が連携するにあたっては、日頃からの情報収集だけでなく、CLAIRのように“橋渡し”役を担う機関の存在が必要といえる。

NGO 担当者より

本事業は、WVJにとって、初めての自治体との協働事業でしたが、双方の特長やネットワークを活かすことで、来場者数や報道実績件数など数字的な目標達成のみならず、国際理解教育の促進や市民のボランティア参画への動機付等、人材育成の観点からも成果をあげることができました。

協働事業では、異なる組織間においては、物事を決定するにあたってのプロセスやスピードが異なるため、事前に共通の理解と認識をもちながら進めていくことが鍵となります。また、事業完了後の連携をどのように継続していくのか、フォローアップの仕組みを整備していくことが今後の課題です。

(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン 今村 郁子
国内事業部 マーケティング課